

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部4年 高木りあ

①学習成果

初めて英語以外の言語をしっかりと学び、言語を学ぶ楽しさを再認できた。共通言語である英語を学べば問題ないと思っていた時期もあったが、台湾に来て一変した。中国語で話すことで、現地の人との関わりがとて増えるからだ。英語しか話さない外国人と少しでも中国語を話す外国人では、印象が異なるのは想像に難くない。新たな言語を学ぶ時は、知らない単語が大半だが、聞き取れた時の喜びはとて大きく、毎回の会話に楽しみがあった。次回海外留学をするときには、また英語圏以外の地域で、その土地の言語を習得したいと思う。

②海外での経験

地元の人と沢山交流できたことが今回の留学の中で最も大切な経験となった。普段の旅行なら、地元の人と話すことはないが、中国語を少し勉強したので、話すことができた。台湾の人々はとて親切で、かつ日本のことが好きな方が多かった。道を聞くと、道を教えてくれるだけでなく、いつから中国語を学んでいるのか、どこで学んでいるのかなど、沢山話しかけてくれる。そのおかげで、中国語を話す練習になった。また、迷っていた人を見つただけで声をかける台湾人の温かさに触れ、台湾のことがとて好きになった。

③プログラム内容

平日の午前中に中国語の授業を受けた。午後には宿題をする時間や、台湾文化について学ぶ時間、cultural visit の時間があつた。

中国語の授業に関しては、授業の進め方や学び方が非常に良かった。授業は全て中国語で行われるが、中国語初心者にも分かるように、ゆっくりはっきり発音してもらえる。初日は何を話しているのか全く分からなかったが、慣れてくると聞こえるようになるのがとて嬉しかった。また、先生が一方的に文法や単語などを教えるのではなく、先生と同じくらい生徒も中国語を話す形式だった。この形式が私の中国語を話す能力向上に役立ったことは間違いない。常に頭を動かし、質問内容を聞いて答えることを繰り返すため、ただ聞いているだけの授業よりも、文法の使い方や単語が頭に入ってくるスピードが早かった。宿題も多すぎず、授業を受けている間は頭をしっかりと使い、中国語を定着させ、授業後は軽く復習と予習をするサイクルを繰り返すことができた。

午後には、台湾大学の学生がチューターとして質問に答えてくれる tutor station が非常に学習に役立った。授業で疑問に思ったことを質問できるだけでなく、日常生活で疑問に思ったことや、うまく発音できないことに対してまで親切に教えてくれる体制だった。

Cultural visit では、実際に寺や街を訪れ、ガイドさんに歴史や文化を説明してもらった。寺での習慣など、日本と全く異なる文化があることに驚いた。自分たちで観光しているだけでは知り得ないことを、現地で教えてもらえて学びが深かった。ガイドは中国語と英語で行われわれ、私は中国語初心者なので、英語で解説されるグループに所属したが、中国語で聞き取れるようになりたいと強く思った瞬間であった。

④進路への影響について

来月から就職する会社が決まっているので、進路に関する変更はない。ただ、台湾のことがとて好きになったので、今後台湾での仕事の機会があれば是非手を挙げて参加したいと思った。